

<平成30年度 ハローオリンピズム事業>

オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 山北町立山北中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会



平成21年4月の学習指導要領の改訂以来、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されています。その中で、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容には、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」とオリンピックの意義が明示されています。そこで、JOCでは、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められており、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことのできない感動が生まれることを期待しております。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

また、「スポーツ基本法」の前文の一部には、「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習することで、この基本法に記された精神や態度が日常生活の中で具現化され、生涯にわたってスポーツに親しむことができるようになることを願っています。



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成30年4月～平成31年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 60校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

- 期 日：平成30年11月7日（水）
- ク ラ ス：2年C組（27名）
- オリンピアン：太田 陽子 先生（陸上競技）



■授業のながれ：運動の時間（1時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、今日の授業では全力で取り組むこと(エクセレンス)、協力すること(フレンドシップ)、ルールを守ること、フェアプレー(リスペクト)を意識しながら取り組んでほしいと伝える。
- ・ストレッチを実施した後、じゃんけん勝ち抜きを全3回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・立ち幅跳びリレーを全3回実施。太田先生からは、パワーポジションの作り方や「跳ぶ方向をしっかりと見る」「着地の際は関節を柔らかく使って衝撃を和らげる」等のアドバイスが伝えられた。

4. まとめ



- ・冒頭で伝えた「全力で取り組む」「協力する」「ルールを守る」「フェアプレー」を実践できたか問いかけ、これらは3つのオリンピックバリューにつながっていると伝え、授業終了。



■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・授業の目的を確認した後、映像を見せながら自己紹介し、近代オリンピックの歴史やオリンピックシンボルの意味について解説。
- ・太田先生が競技を通じて感じたオリンピックバリュー(エクセレンス：「卓越」「全力で取り組む」「諦めない」「平常心」「努力する」「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「友情」「ライバルと共に」、リスペクト：「敬意/尊重」「受け入れる」「フェアプレー」「フラットな姿勢」)を伝える。

3. グループワーク



- 発問：日常生活を振り返って身近にあるオリンピックバリューを考えよう。
- 発表：部活で全力で練習する、苦手を克服するためにたくさん勉強する(エクセレンス)、部活の仲間と協力する、体育祭をクラスみんなで協力する(フレンドシップ)、ライバルや目上の人に敬意を示す(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・東京2020大会では選手としてだけでなく、ボランティアや通訳等、選手をサポートするさまざまな立場でオリンピックに携わることができるため、興味を持って積極的に参加してほしい。日常生活の中にオリンピックバリューを見出し、協力し合ってさまざまなことに取り組んでほしいと伝え、授業終了。

実施内容

- 期 日 : 平成30年11月7日 (水)
- ク ラ ス : 2年A組 (28名)、2年B組 (27名)
- オリンピアン : 伊藤 華英 先生 (水泳・競泳)



■授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、オリンピックバリューについて「エクセレンス=卓越、素晴らしいこと、自分のベストを尽くすこと」「フレンドシップ=友情を育むこと」「リスペクト=尊敬、相手と認め合うこと」と説明。これらは生活の中でも必要になることであり、今日の授業でも体感してほしいと伝える。
- ・簡単な準備体操の後、ボール取りゲームを全5回実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳びを全3回実施。3チームに分かれ、90秒間で跳べた合計回数を数え、全3回の合計数を競う。
- ・各回終了後に作戦タイムを設ける。工夫した点を生徒に問い掛けると、「皆で声を出し合う」「失敗してもドンマイと盛り上げた」「縄を速く回したが、引っかかってしまい回数が伸びなかった」等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・冒頭で説明した3つのオリンピックバリューを意識して行動できていたかを問いかけ、今後もそのような行動を続けより高めてほしいと伝えて、授業終了。



■ 授業のながれ： 座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



2. オリンピックの価値を伝える



- ・オリンピックバリューはオリンピック選手だけでなく、皆も日常生活の中で活かすことができるものだとして学んでほしいと授業の目的を確認。
- ・伊藤先生が競技を通じて感じたオリンピックバリュー(エクセレンス：「卓越」「一生懸命頑張ることをスタートラインにすること」「信念を持つこと(続けること)」、フレンドシップ：「友情」「切磋琢磨をすること」「声を掛けること」「助け合うこと」、リスペクト：「敬意/尊重」「人の話を聞くこと」)を伝える。

3. グループワーク



- 発問：日常生活の中にあるオリンピックバリューを考え、意見を出し合い書き出してみよう。
- 発表：礼儀正しく大きな声で挨拶をする、目標を立てる、人の成功を喜ぶ、掃除する、責任を持つ、周囲に気を配る(エクセレンス)、お互いに認め合う、嘘をつかない、声を掛け合う、フェアプレー、仲間を信じる(フレンドシップ)、相手を思いやる、人の話を聞く、人の良いところを見つける、平等に接する、感謝する、相手を知ろうという気持ちを持つ(リスペクト)等の意見が挙げられた。

4. まとめ



- ・オリンピックは選手だけの大会ではないので、東京2020大会は自分自身の大会だと思って迎えてほしい。
- ・小さなことの積み重ねが成功につながるので、今日伝えたオリンピックバリューを日常生活にも活かして、自分の意見をしっかりと持ってほしいと伝え、授業終了。



■ 集合写真
2年A組



2年B組



■ 集合写真
2年C組



■ 記念品贈呈
2年A組



2年B組



2年C組



■ 修了証贈呈

